

研究・調査報告書

分類	報告書番号	担当
A-153	20-022	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Alcohol Consumption Reported during the COVID-19 Pandemic: The Initial Stage 初期の COVID-19 流行下におけるアルコール消費について		
執筆者		
Chodkiewicz J, Talarowska M, Miniszewska J, Nawrocka N, Bilinski P.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health. 2020 Jun 29;17(13):4677. doi: 10.3390/ijerph17134677.		
キーワード		PMID
COVID-19 メンタルヘルス アルコール消費		32610613
要 旨		
目的： COVID-19 の流行により、身体的な側面のみでなく、社会的、政治的、経済的、文化的な側面も影響を受けており、これらが深刻な精神状態の悪化を招いている。不安や抑うつ解消にアルコールやその他の向精神薬が使用され得ることが知られているが、感染の流行や事故のような大きな出来事後のアルコール消費は、精神的理由により増加する場合も、経済的理由により減少する場合もある。そこで本研究では、COVID-19 流行下の初期におけるアルコール消費の現状を調査すること、またアルコール消費と精神的ストレスおよびストレスに対する対処法の関連を明らかにすることを目的とした。		
方法： 初期段階とする本研究では、ポーランドでロックダウンが行われた 2020 年 4 月 10 日から 20 日において、443 名の対象者に対し、質問用紙による調査、アルコール使用障害同定テスト（AUDIT）、一般健康調査（GHQ-28）、自覚ストレス調査（PSS-10）、短縮版 COPE（Mini COPE）をオンラインで行った。		
結果： 最も利用率の高い向精神物質はアルコール（73%）であった。COVID-19 の流行により 30% 以上の者は飲酒習慣が変化しており、17.4%は飲酒量が減少し、13.8%は増加したと回答した。飲酒量が減少したのは若年者が多かった。元々飲酒量が多い傾向にある者は、流行下において以前よりも飲酒量が増加し、ストレスとうまく付き合うことが困難な傾向にあった。		
結論： 約 14%は流行下において飲酒量が増加しており、これらの対象者は元々飲酒量が多く、精神的な悪影響を受けやすいことが明らかとなった。		